

NAGASAKI YOUNG



GENERATION ASSOCIATION

社団法人 長崎青年協会



迎春

■本年度スローガン

**歴史に学んで 未来を語り
築き上げよう 長崎の明日**

社団法人
長崎青年協会憲章

我々は会員の団結と
相互扶助の精神の基に
自己の建設と
会員の親睦を図り
もって地域社会の発展に
寄与する事を目的とする

1

発行/長崎市魚の町7-7
(社)長崎青年協会
会長 劉 濟才
編集/広報委員長 中村 善人

創立/昭和44年3月1日 社団法人設立/昭和59年3月23日

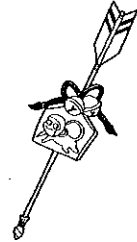
NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION

謹 賀



長崎青年協会会長

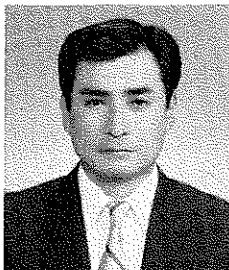
劉 濟 才



新年明けまして、おめでとうございます。皆様には、すがすがしい気持ちで、新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年はバブル経済の崩壊により、日本の経済が根底より揺り動かされ、企業の本質を問われた1年でありました。又長崎におきましては、一昨年からの雲仙普賢岳による噴火災害、そして台風19号による被害と災難続きの1年でありましたが、青年協会活動におきましては、地域社会との関連を深める意味で行なった新年度懇談会をはじめ、一連の継続事業も、会員の皆様のご協力により順調に行なってまいりました。

又今年度、初めて取りくんだ青少年育成事業の「大好き長崎なるほどセミナー」は、私達が当初、予想をした以上に、参加してくれた子供達や保護者の方の反響が良く、行政からも高く評価されております。さて2月に海外研修旅行を予定していますが、これを機会に、私達の国際感覚を養う貴重な体験としたいと思っておりますので、皆様方の積極的な参加をお願いします。

本年度も余すところ、あと3ヶ月となってまいりました。前半は対外的なことが多く、内部に目を付けることができずに、会員の本質を問われました。これから残された時間を内部の充実に努め、次年度へとバトンタッチしていきたいと思っております。この1年が皆様にとって良い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。



総務担当副会長

船 越 正 治

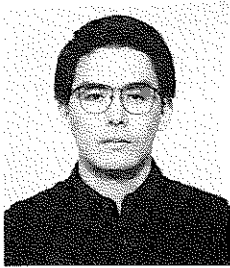


皆様、明けまして、おめでとうございます。

昨年は、個人的にも、また11月の選挙も、会員及びOBの方に、大変お世話になり、ありがとうございました。私の担当いたします3つの委員会は、3月迄、多くの仕事が残っています。

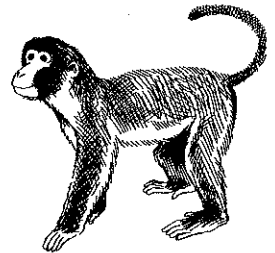
総務委員会は『手帳の大改革』、例会委員会は2月の『ビッグ講師例会』、3月の『卒業を送る夕べ』、広報委員会は2回の広報誌発刊 etc...。3月迄3委員会とも、気を抜かず、やりとげますので、御協力をお願い致します。また次年度の事も個別にお願いにまいりますので、重ねて御協力をお願い致します。

新 年

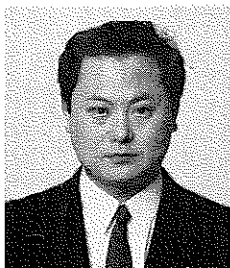


事業担当副会長

金 田 芳 裕

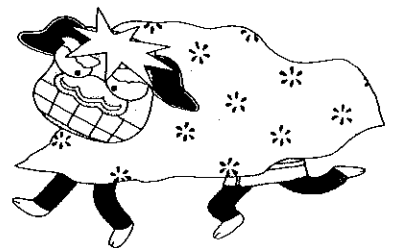


新年、明けましておめでとうございます。昨年1年間、色々な事業を通し、会員の皆様を始め、OB諸兄、並びにご家族の皆様には大変お世話になり、心より感謝しております。振り返れば、劉会長のもと始動した4月当初は、ただ漠然とした目標の設定しか出来ず、事業グループのメンバー一人一人が不安な気持ちを隠しきれないほどでした。しかしながら、日々委員会を重ねることにより、みんなの気持ちもひとつになっていき、終わってみれば、今年度の事業は、青年協会の新たな事業展開の第1歩になり得るのではないかと思います。事業委員会の「青少年育成事業（大好き長崎なるほどセミナー）」を始め、企画委員会の「おくんち広場'91」、地域社会委員会の「蘇れ、長崎歴史人物百選」など、全てが、青年協会独自の事業として今後独り立ちしていける事業となることを願うものです。最後になりましたが、今年1年の会員の皆様のご健康とご多幸をお祈りしております。



会員担当副会長

渡 辺 秀 孝



新年明けましておめでとうございます。皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、日本の内外で色々な事がありました。私にとっても平成3年度は、新規会社設立という忘れぬ年となりました。今年度は飛躍の年でありたいと思います。

さて、青年協会平成3年度事業も一息ついた感がありますが、ことわざにある「龍頭蛇尾」とならない様に、残りの3ヶ月を会員担当3委員会スクラムを組みトライする決意です。会員の皆様のご協力を宜しくお願いし、この一年のご健康とご活躍を期待致しまして、新年のご挨拶と致します。

とし おとこ
'92年男に聞く

◎昭和31年(1956年)のできごと

- 1月22日 田川務 長崎市長に西独人権擁護院から人権アカデミー賞
- 5月6日 対馬万関橋完成
- 5月24日 売春防止法公布(鳩山内閣)
- 7月20日 雲仙天草国立公園となる。
- 11月3日 第1回長崎県美術展開催
- 12月18日 国連加盟



張 仁 春
昭和31年2月5日生

①昨年を振り返って

昨年の花火販売は順調に伸びましたが、機械設計が台風の影響で、注文が激減しました。また模型も目玉商品がなく集客に苦労しました。私的なことでは待望の女の子が誕生しました。

②今年の抱負

昨年から東京在住の兄弟と共同で新しい玩具を開発及び売り込みに入っています。全く新しい企画で玩具業界にブームを起こせたらと、思っています。

③達成の見通し

新製品は企業もマスコミからも注目されています。あとはコストです。

④会員の皆さんに

忙しい時は、忙しいなりに協会の活動に関わるように努力して下さい。



松 島 孝 之
昭和31年3月11日生

①昨年を振り返って

業界全体(繊維)が慌ただしく売り上げ伸びず、現状のまま、ただ残念です。

②今年の抱負

困難を打破して、勝つ喜びを味わいたい。

③達成の見通し

むずかしい。

④会員の皆さんに

健康に注意して馬車馬のように働け。



白 山 光 男
昭和31年6月3日生

①昨年を振り返って

慌ただしい1年でした。年頭での目標は、資格を取ることで、電気工事士は合格できましたが、情報処理はたぶんダメみたいです。そして今は、無線の勉強中です。

②今年の抱負

取れなかった資格に再挑戦します。余裕があれば上を狙います。

③達成の見通し

何とかなるでしょう。

④会員の皆さんに

私なりに今年もがんばるつもりです。入会して間もないので、これまで面識のない会員の方との交流が楽しみです。



新 井 正 実
昭和31年9月28日生

①昨年を振り返って

事務所を法人とし、城山台1丁目に住まい共々移転したりで、あまり協会活動に参加できなかった事をお詫びいたします。

②今年の抱負

いよいよ3度目の年男となり、責任ある年齢となりました。これまで以上に人の心を大切にしたい行動を取りたいと思います。

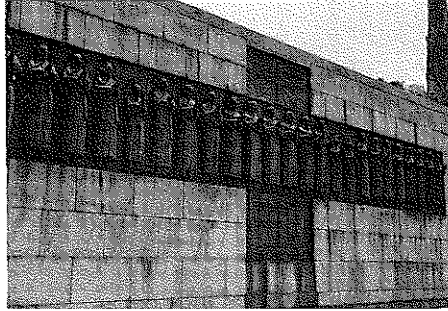
③達成の見通し

協会活動において例会出席率100%

④会員の皆さんに

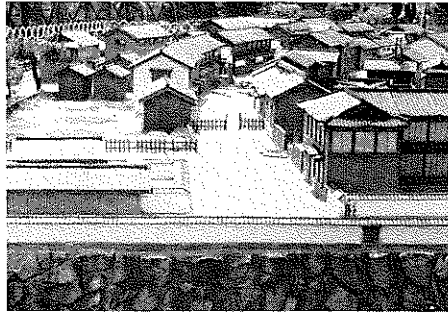
信念とは宿願の原動力である。

長崎年表(ステップ百年)



400年前

- ◆1592年
 - 長崎奉行所を設置 (本博多町)
初代奉行 寺沢広高
代官 村山等安
 - 文禄の役
 - 朱印船制度



300年前

- ◆1691年
 - 島原藩で小浜村に初めて甘藷を栽培
 - 鍋島諫早領の現川で陶器窯を築く



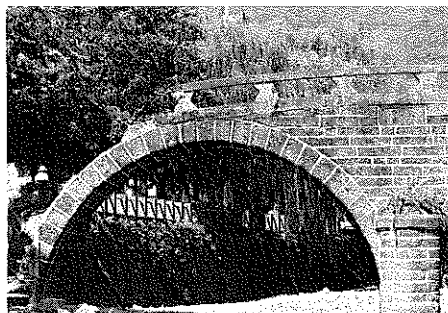
200年前

- ◆1792年
 - 4月1日○雲仙大爆発
(参)1783年浅間山大爆発
 - 4月23日○幕府は島原藩に二千両貸す
 - 9月 ○さらに一万両貸す



100年前

- ◆1892年(明治25年)
 - 1月8日○日本マリア会海星学校創立
 - 5月 ○私立長崎女子裁縫学校創立
明治32年 玉木女学校と改称
 - 小学校教科書検定制を施行



ひと昔前

- ◆1982年(昭和57年)
 - 1月18日○旭大橋開通
 - 2月8日○ホテルニュージャパン火災
 - 2月9日○日航機羽田沖事故
 - 4月2日○フォークランド紛争
 - 7月23日○長崎大水害

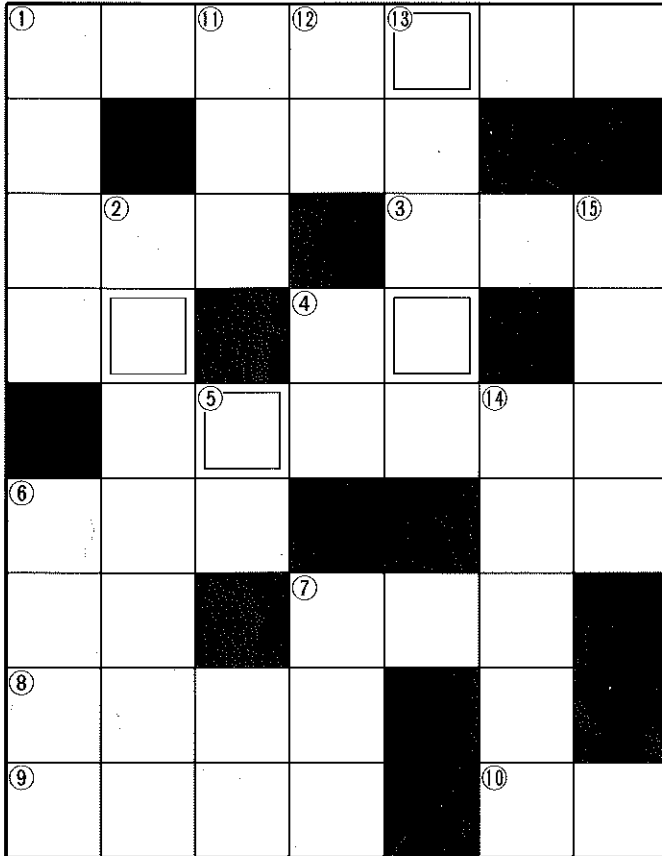
'92新春クロスワード・パズル

懸賞付

□の4文字を組み合わせてキーワードを見つけ
ハガキに書いて事務局まで送って下さい。

正解者の中から抽選で3名の方へ素敵なプレゼント!

御家族そろって
さあ一チャレンジ!



【ヨコのヒント】

- ① 本蓮寺でお久と過ごした男
○○○○○○○
- ② ピワの木は○○科の植物
- ③ ストライク!でもバットがないよ
○○○ンゲ
- ④ ○○の港ナガサキ
- ⑤ 長崎に建てられた教会
トードス・オス・○○○○
- ⑥ 出島の横につくられた四角の
埋立地 ○○○
- ⑦ 活版印刷の祖、○○○昌造
- ⑧ 十六寸は○○○○マメ
- ⑨ ○○○○・B・グラバー
- ⑩ 長崎名物○○墨

【タテのヒント】

- ① 松田雅典が日本で最初に作った物
○○○○
- ② 出島でしていたスポーツ
○○○○○○(6文字)
- ⑥ セントポールは○○○○市
- ⑪ 上野彦馬は名○○○マン
- ⑫ 銅座で産科を開業した○○
- ⑬ ハイドレンゲアを愛した男
○○○○○
- ⑭ 日見トンネル東口 ○○○○○
- ⑮ 風頭公園に立つ男 ○○○○

※しめきりは1月16日まで! /

歴史研究会だより 幕開け

1571年のポルトガル船による長崎開港以前、福田に停泊し小舟で荷揚げをしていた頃があった。大阪の商人達も集まり、平戸、横瀬浦の後、福田が貿易港として賑わっていたのである。しかし、外海に面し台風の被害を受けやすい事や防衛上、不利な地形である為、安全な長崎港(当時、深江浦)へと移ったのだ。その長崎も港としては好環境だが、全体を見れば細長い入江で入り口付近は大小の島々があり、座礁や沈没の危険が付き纏っていた。だが、命掛けで守られた積荷は最後の難所を乗り越えて出島へと運ばれて来たのである。そこでは本来の貿易による利益の他に濡れ手に粟のうまい話があ

った。それは諸外国における金銀の交換比率と日本のそれとは大きな差があり、この両替操作によって思わぬ収入が得られるからだ。しかし、その後の貿易規制で夢と消えた。現在の胡坐をかいて摺んだバブル経済の崩壊は、当時と比べれば当然の成り行きと笑われることだろう。出島も開国によって、機能と繁栄を失い面影すら薄らいでいた。その復元計画が周辺の土地問題でクローズ・アップされて日本中の話題となった。歴史の町ナガサキというキャッチ・フレーズの泡ではなく、その本質が注目されている今年、真の幕開けの年である。